



SESERAGI-MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2010~2011年度 RI会長 レイ・クリンギンスミス

RIテーマ BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS 地域を育み、大陸をつなぐ

クラブテーマ 「親睦をもっと深め、心の奉仕を行動で示そう」 会長 西原克甫

副会長 渡邊照芳 幹事 内田憲一

第1042回 例会 2011.4.22 (金)曇

司会:久保栄子君 指揮:土屋 巧君

ロータリーソング 「それでこそロータリー」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F

TEL. 055-976-6351 FAX. 055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

例会場 ブケ東海三島

TEL. 055-984-0120

毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

せせらぎ三島ロータリークラブ

会長 西原克甫君

国際ロータリー第2620地区ガバナーから、東日本大地震義援金は4/18日現在で¥30,618,225円集まりました。ご協力ありがとうございます。全額をガバナー会に送金致しましたのでご報告いたしますとのことです。



ガバナー会から、4/1日現在で¥412,886,628円集まったそうです。4/1に集まった義援金のうちとりあえず見舞金として

RI 2520地区(岩手、宮城)に ¥5,000万円

RI 2530地区(福島)に ¥3,000万円

RI 2820地区(茨城)に ¥1,000万円

RI 2550地区(栃木)に ¥500万円

RI 2790地区(千葉)に ¥500万円

以上一億円をガバナー宛てに送ったそうです。

計画停電がもたらした様々な問題今後も続くと思われませんが皆さんが協力して節電をして下さって又、昔の良さ??? 暗さの再発見?? 「暗さ」「陰影」歓迎するムードへ変化している様です。東京の夜は明るすぎた。東日本大震災の影響で、首都圏を中心に繁華街のネオンが消え、経済活動が沈滞ムードに包まれている一方で節電の暗さに対する日本人の意識に変化がもたらされている様です。「陰影」という日本建築の概念に光が当てられ、夜の暗さを再評価する機運が出てきたそうです。「東京の夜はこれまで明るすぎた」そんな自戒の念が聞えてるようです。

「震災以降の東京の地下鉄は、ヨーロッパの駅の構内の明るさと同じで、この暗さもだんだん慣れてきた」と多くの方が思い始めている様です。企業や家庭で進められている節電の励行。町の暗さの受容する感性はさらに歓迎されるべきです。昼から夜へ、明るさの谷間に当たる「たそがれ時」に対する意識は、国民性や気候風土が反映されるそうです。日本の夜の明るさや派手なライトアップに長年疑問を投げかけてきた方々によると、日本では日没の1時間前に照明を付けるが、ヨーロッパではほぼ日没の頃。明るさの余韻を惜し

むかのように照明をなかなかつけないそうです。昭和8年、谷崎潤一郎は、日本家屋が織りなす薄暗さの美について論じた「陰翳(いんえい)礼讃」を刊行した。この一冊は、海外の建築家の間でも建築思想の「手本」として読み継がれてきたそうです。その一節に「暗い部屋に住むことを余儀なくされた我々の先祖は、いつしか陰翳(いんえい)のうちに美を発見し、やがては美の目的に添うように陰翳を利用するに至った」とあるそうです。

無駄な光をなくす。平成元年に「光害(ひかりがい)防止条例」を制定した岡山県の街もあり、過剰照明の自粛を呼びかけ、夜10時以降は各家庭でも消灯することを励行する内容で、条例には「美しい夜空を見よう」という目的があり、星の見え方は市民のモラルにかかっている。「暮らしの中から無駄な光をなくし、照明を水平よりも上に向けない様にするだけでも星はきれいに見えるそうです。都会の空に本来の夜空が戻ることは、節電によるたまものと思います。」我々も節電をしながら「陰翳(いんえい)」や「夜空」を楽しみましょう。

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	28/31	90.32%	29/31	93.55%
今回	24/31	77.42%	会員総数	33名
欠席者	あなたが見えなくて残念でした。			

石井(司)君、遠藤君、岡君、小林君、中村君、中山君、山口(雅)君



スマイルボックス

石井和郎君:大房さん、残り2日です。一踏張りして下さい。
久保栄子君:6月30日函南町中央公民館にて戦場カメラマンの渡辺陽一さんの講演会があります。ご希望の方はチケット代900円にてご案内差し上げます。よろしくお願ひします。

大房正治君:お世話になります。後一步です。どうぞ宜しくお願いいたします。

望月保延君:息子にコキ使われて仕事をしています。すみません。早退させて頂きます。

米山晴敏君:なんとなく、スマイル!

おめでとう

会員誕生日 4月29日 石井邦夫君
入会記念日 4月30日 土屋 巧君

地区協議会報告



次年度会長 渡邊照芳君

●4月17日(日)当初は朝から1日行う予定でしたが東日本大震災の影響で計画停電が予定されており、午後から半日で行われました。後ほど次年度の各委員長さんには報告して戴きますので私の方からはR I会長のテーマと強調事項、そして積ガバナエレクトの地区目標を報告したいと思います。

2011~2012年度の国際RC地会長はインド出身のカルセン・パネルジー会長で御座います。

●会長のテーマ

「心の中を見つめよう・博愛を拓げる為に！」

自分自身の心の中をじっくり見つめて、今、自分がして欲しいと思うような事を周囲の人々になし、その愛を拓げて行こう！

●強調事項

1)「家族」 全て世の基本は家族である。まず自分の家族を大切にしその輪を拓げよう！

2)「継続」 我々が今までやってきて良かった事は継続しよう！

3)「変化」 釈迦の変化に応じて我々も良い方向に変化しよう！

自分が変わらなければ周りは変えられない！

この3点が強調事項であります。

●次年度の地区目標

- 1 会員増強
- 2 東日本大震災復興支援
- 3 ロータリー財団寄付
- 4 ベネファクター
- 5 米山記念奨学金事業
- 6 ポリオ撲滅資金への寄付
- 7 GSE
- 8 富士山世界遺産登録支援

とありますが、この中で第1目標は3月11日に起きた東日本大震災で、多くの同盟が災害で苦しんでいます。

我々は何をすべきか、今ほどロータリーの真価を問われて居る時は無いでしょうか！先ず全力で災害復興支援に取り組むべきであり、急きょ地区目標の第1に制定しました。今回の復興には時間がかかるといいます。今後「義援金」という事でなく、「復興支援金」という名目で集めて行きたいといっています。

次年度社会奉仕委員長 山本良一君

牧田パストガバナーは、いまロータリーは大きな曲がり角にさしかかっています、DLP, CLPに始まり・・・と言われましても不勉強な私には判りません。クラブ・職業・国際・社会奉仕の4大奉仕に青少年奉仕が加わり5大奉仕となりましたが、奉仕プロジェクトとして一つか二つの重点奉仕にクラブとして全力を傾注する、また、単年度でなく数年間継続する。当クラブの事業は単年度事業もあり継続事業もあり牧田パストガバナーのアドバイスどおりの事業であり次年度計画も方向が見えてきたようです。牧田パストガバナーはロータリー活動の主体はあくまで個々のクラブと会員であるということ、金太郎飴のようにどこを切っても同じ顔である必要はない。単なるボランティアでなく、職業奉仕の理念に基づく職業倫理の高揚とその実践を目的とした団体である。私たちは地域社会のニーズを吸収し会員の英知を集め、継続性のある奉仕活動を選択してクラブの長期計画を作成する。次年度の事業計画を策定するための地区協議会でありましたが、次年度会長幹事理事皆様のご指導ご協力をいただき事業計画を決定していきます。

次年度会員組織委員長 片野誠一君

地区研修リーダー 飯田PG

・昨年山梨分区分では2クラブがR Iを脱退した。その理由はクラブの雰囲気が脱退ありきで、立て直しが難しかった。平均年齢が70歳を過ぎ、会長、幹事を何回もやって来ている。若い人たちの入会の勧誘をしたが、経済的問題で入会は難しかった。

・国際協議会で、ビル・ゲイツ氏はポリオ撲滅プログラムにR Iにその予算の倍額を寄付すると名言した。R Iはその予算を1億ドルを採択した。その結果ゲイツ氏は2億ドルの寄付をした。その時日本のロータリーは大変憤慨したが採択された。日本では一般には寄付は個人の自由意志で行い、それぞれの状況で決めるのが常識となっている。このことは会員の寄付への強制につながり、退会の要因にもなるのではないかと指摘された。

第2ゾーンコーディネーター R I会長代理坂本PG

・会員数の状況 世界の会員数124万人が122万人に減少。日本では131千人が89千人に減少。

・会員数20人以下のクラブは世界では34,026クラブ中7,796クラブ(23%)。日本では2,308クラブ中367クラブ(16%)である。

・試験的プログラムとして、35歳以下の人達を対象に入会金、年会費の免除、または低減。

ロータリー財団委員会 矢岸貞夫君

ロータリー財団創設第二世紀に向けて、財団のプログラムが大きく変更になりました。新しい制度は「Future Vision Plan 未来の夢計画」と呼ばれます。本年度2010年7月からは、世界531地区のうち100地区が試験段階に入り、2013年7月からは世界全地区で新制度へ移行します。「財団の使命に沿って、世界の優先的なニーズに取り組み、最大の成果をもたらす」という、大変野心的な目的と言えましょう。

「5つの優先事項」

1. プログラムと運営の簡素化
2. 未来の夢計画に沿ったプログラム
3. 地区あるいはクラブレベルで「自分たちの財団」と自覚すること
4. 目標達成のための十分な資金と人材の提供
5. 計画を支える効果的な方策の開発

一つは「プログラムの簡素化」、もう一つは「地区の裁量権の拡大」にあると思われます。現在、世界100地区、日本6地区(2580東京都北部・沖縄、2650福井県・京都府・奈良県・滋賀県、2690鳥根県・鳥取県・岡山県、2760愛知県、2770埼玉県南東部、2830青森県)がパイロット地区としてスタートしております。